



既存薬剤の Drug repositioning による 肝病態進展制御

吉治 仁志

Hitoshi Yoshiji

消化器内科学／教授

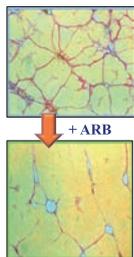
■キーワード 既存薬剤、肝線維化、肝発癌、肝硬変、NASH

シーズ概要

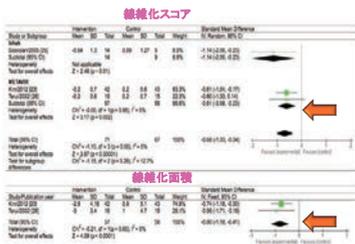
慢性肝疾患の病態進展の全容は未だ明らかでないが、ウイルス性、非ウイルス性を問わず肝線維化が表裏一体をなして進行し、最終的に肝発癌を誘発している可能性がある。われわれはこれまで既に使用されている薬剤が臨床に匹敵する低用量で肝線維化や肝発癌に対して抑制効果を示すことを報告してきた。本研究では慢性肝疾患病態において既存薬剤を用いた Drug repositioning が肝線維化や肝発癌に応用可能であるか種々の角度から検討を重ねる。

本研究室ではこれまでに、降圧薬である ACE 阻害薬や ARB、糖尿病治療薬である DPP-4 阻害薬、SGLT2 阻害薬、脂質異常症に対するスタチン製剤などが臨床用量に匹敵する用量で肝線維化、肝発癌を著明に抑制することを明らかにしてきた。さらに、既存薬剤を組み合わせることでより強い抑制効果を認めており、安全性の確立された薬剤の Drug repositioning による臨床への展開が期待できると考えられ、産学連携により早期の臨床応用を目指したい。

降圧薬であるARB/ACE阻害薬は著名な肝線維化進展抑制効果を有する



(Yoshiji H et al. Hepatology 34, 745)
(Yoshiji H et al. J of Hepatology 37, 22)



Appeal Point

アピールポイント

既に臨床で広く使われ、安全性の確立している薬剤の新たな側面を切り開く研究となる可能性があり

関連文献／特許

- 『抗悪性腫瘍薬』
特許第4018854号
- 『肝細胞癌の予防及び／または治療』
特願2013-081708

研究成果の応用可能性

既存薬剤の臨床応用ならびに適応拡大
薬剤効果の増強に役立つ食品の研究と包括的なメタボリック
クシンドローム対策